

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ヌルデ (*Rhus javanica* L.)

中村 剛 (日本植生株式会社) info@nihon-shokusei.co.jp



ヌルデは、ウルシ科ウルシ属の落葉小高木で、樹高は5 m内外、時に10 mを超える。葉は奇数羽状複葉で、9~13枚の小葉からなり、長さ20~40 cm。

葉の中軸には翼がある点特徴的であり、同定は容易である。花期は8~9月、枝先に円錐花序で小さな花を多数つける。日本全土の山野で普通にみられ、特に林縁、伐開地、道路縁に多い。朝鮮半島、中国、インドシナ半島北部からヒマラヤに分布する³⁾。

かつては、葉にできる虫こぶから、良質のタンニンが採れるため、各地で栽培された⁴⁾。近年は、播種導入に適した在来の木本植物であり、成長が早く、乾燥地、痩せ地でも良好に生育する⁴⁾ことから、法面緑化用の樹種として重用されている。

筆者の勤務先では、1997年に岡山県内で、ヌルデの種子を配合した植生基材吹付工を切土法面に施工した。ここから発芽した個体は、14年が経過した現在、樹高5 mを超えるまでに成長している。また、筆者らは、2001年に京都府内で森林表土利用工を施工し、その後の植生について継続調査を実施している。施工当初に発芽したヌルデのうち、代表的な個体の樹高は、施工後2年3ヶ月で2.4 m、施工後4年1ヶ月で2.9 mとなった⁵⁾。

ヌルデの種子は、容易かつ大量に採取できる⁸⁾ことが知られている。種子採取は果実が成熟する10月以降に行うこととなるが、本種の特徴である有翼の中軸が、落葉後もところどころ残っており、他の樹木と間違えることはない。結実した雌株は、褐色の果実を数多く下垂しており、遠目からも目立つ。そのため、車を運転しながら、次々とヌルデの木を見つけていくことができる。一般的に樹高3~4 mの個体が多い。高枝切りばさみで果穂を採取するのに手頃な高さである。採取した果実はパラフィン質の樹液で湿っており、手で触るとぬるぬるする。これがヌルデと呼ばれる所以であろう、などと考えながら、集めた果実を杵で突いて精製した結果、半日の採取・精製作業で約3 kgの種子を得た経験がある。

種子の単位粒数は、43~150粒/g^{2,4,8)}、発芽率は、10~38%^{2,8)}と、報告値に随分と差がある。普段我々が取り扱う緑化用植物は、選抜された系統を圃場で増殖することによって得られたものであるから、形質や特性が揃っている。しかしながら、野山に自生する植物には、こうした個体差が付きもので

ある。

本種はまた、永続的シードバンクを形成する代表的な植物としても知られている。地面に落下した種子は、相当年数を埋土種子として過ごす。このとき、埋土種子の休眠を解き発芽を誘引するのは、太陽光の直射による地温の上昇であると考えられている⁷⁾。土中におけるヌルデの種子の生存年数は、70年を超えるものと予想されている⁶⁾。

本種は、どこにでもみられる種類だけあって、森林表土利用工を施工すると、高い頻度で出現する。筆者が調査した本州以南の42現場のうち、35現場でヌルデの生育が確認された。発芽のタイミングは揃っておらず、施工翌々年まででたらだと発芽したケースがあった。一旦発芽した個体は、枯死率が低く、順調に生育するものが多い。枝葉は横に広がり、緑量を稼いでくれる一方で、地面に適度な日陰を作り、土壌の乾燥を緩和してくれる。森林表土利用工には、なくてはならない樹木のひとつだと思っている。

引用文献

- 1) 平井信二 (1996) 木の大本科, 朝倉書店, 東京, p. 394.
- 2) 勝田 柁・森 徳典・横山敏孝 (1998) 日本の樹木種子 (広葉樹編), 社団法人林木育種協会, pp.225-22.
- 3) マザーソイル協会 (2009) 植生追跡調査法と施工地にみられる代表的な植物, マザーソイル協会, p.21.
- 4) 日本道路協会 (2009) 道路土工一切土・斜面安定工指針一, 丸善, pp.236-237.
- 5) 小畑秀弘・中村 剛・谷口伸二 (2010) 表土シードバンクを吹付けに活用した施工事例 (V) 一切土のり面における施工後4年の植生調査結果一, 日本緑化工学会誌, 32(4): 513-516.
- 6) 小澤準二郎 (1950) 土中に埋もれた林木種子の発芽力, 林業試験集報, 58: 25-43.
- 7) Washitani, I. and Takenaka, A. (1986) 'Safe site' for the seed germination of *Rhus javanica*: a characterization by responses to temperature and light, *Eco. Res.*, 1: 71-82.
- 8) 山田 守 (2004) 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る: アカメガシワとヌルデ, 日本緑化工学会誌, 30(2): 433.



ヌルデの花序：夏の終わりに、多数の小花からなる黄白色の円錐花序を枝先につける。



ヌルデの芽生え：撒き出した森林表土から長楕円形の双葉がいち早く現れる。本葉は、第一葉から3全裂し、荒い鋸歯と赤みを帯びた色合いから一目でヌルデと判る。



森林表土利用工に成立したヌルデ群落（鳥取県）



ヌルデの果穂：なめると塩辛いそうである。塩分補給に小鳥が採餌し種子散布をするという。